

NEWS LETTER

Fiscal Year

2025

vol.227



2025年度（令和7年度）事業総括

2025年度は、人財育成、技術協力及び連携促進の各事業について、厳しい予算の制約が続く中、効果的かつ効率的な事業運営に努めました。

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、原油価格、天然ガス価格は上昇し、値動きの大きな展開となりましたが、その後は比較的安定した動きを見せておりました。しかし、2026年2月のイスラエルと米国によるイランへの先制攻撃やイランの報復攻撃等により、中東情勢は非常に緊迫・混迷した状況が続き、原油、天然ガスの価格に極めて大きな影響を及ぼしています。原油・天然ガスの殆どを輸入に頼る日本としては、原油市場、天然ガス市場の安定化は、世界及び日本経済にとって極めて重要であり、こうした状況下において、JCCPの各事業を通じた産油・産ガス国との協力・信頼関係の維持・構築は、日本のエネルギー安定供給の一翼を担うものとして、これまで以上に重要性が増しているものと認識しています。

カーボンニュートラルへの対応でも、JCCPとして柔軟かつ機動的な事業運営を行い、関連事業に力を入れています。政府のGX（グリーン・トランスフォーメーション）実現に向けた取組みが加速する中、JCCPとしても、政府の動きに機敏に対応した事業運営が求められています。

44回目を迎えた国際シンポジウムでは、「揺れる世界、ソフトパワーが紡ぐサステナビリティーエネルギーの共創と進化」をメインテーマとして、産油・ガス国要人、駐日大使館、経済産業省を始めとする関係省庁、国内外関係企業、団体等から約260名にご参加いただきました。

また、日本の原油最大輸入国であるアラブ首長国連邦（以後、UAE）と始めた「女性のキャリア開発に向けた友好委員会（FCW）」の活動は、10周年という節目の年を迎え、5月に東京、11月にUAEで年2回のフォーラムを開催しました。過去10年で成し遂げた成果や進歩を振り返りつつ、日本とUAEや関係参加国の知見を融合させ、持続可能な未来に向けた女性のリーダーシップの重要性について、改めて内外に発信しました。

詳細は次の通りです。

FY2025

人財育成事業

1. 事業報告

2025年度は、全コースを研修効果の極めて高い対面形式による研修コースとして実施しました。直轄受入研修では、レギュラーコースとして、石油関連技術・メンテナンス関連（4コース）、リーダーシップ・マネジメント関連（3コース）、プロジェクトマネジメント関連（3コース）、DX・計装制御関連（3コース）、人財開発関連（2コース）、カーボンニュートラル関連（2コース）、石油物流関係（1コース）、LNG関連技術（1コース）、の計19コースを開催しました。



TR-1 カーボンニュートラルの達成に向けた
エネルギートランジション研修



TR-6 天然ガス・LNG利用技術研修

今年度は、デジタル技術を駆使して内容高度化を図ったこれまでの研修で蓄積した効率化への知見を活かし、対面研修ならではの高い熱量をも融合させた新たな複合型研修の確立に注力しました。来日前に研修生がAIを活用した動画によるオンデマンド学習で基礎知識を習得する体制を整えたことで、日本国内の実地集合研修において、相互の議論やアウトプット、個別フィードバックといった実践的活動により時間を割けるようになり、対面指導の価値の最大化が可能となりました。ゲーミフィケーションプログラムでも、単なる手法導入に留めず、経営戦略の複雑な相関関係を構造的に分析する「経営戦略シミュレーション」として再定義し、システム思考獲得を促す議論中心の内省プロセスを組み込む形へ進化させました。

さらに、実地研修先での3D VRを用いた安全教育の導入など、学習プロセス最適化と体験の深化が相乗効果を生むように工夫することで、研修全体の質を向上させました。次に、中東や東南アジア産油・産ガス国からの個別要請に基づく特別コース（カスタマイズドコース）も実施しました。2025年度受入は、サウジアラビア・エネルギー大臣からの個別要請を受けた同省若手女性職員向け特別コースを筆頭に、UAE、オマーン、クウェート、ベトナム、インドネシア、タイ等を対象に5コースを、専門家派遣ではUAEを対象に実施しました。この結果、直轄受入研修309名と企業協力受入研修159名を合わせ、参加者468名を受け入れました。直轄受入研修のコース別実績は、以下2. 事業実績にある記事のとおりです。

なお、JCCP設立の1981年以来、受け入れた参加者は2025年度末時点で累計28,522名に達しました。

FY2025

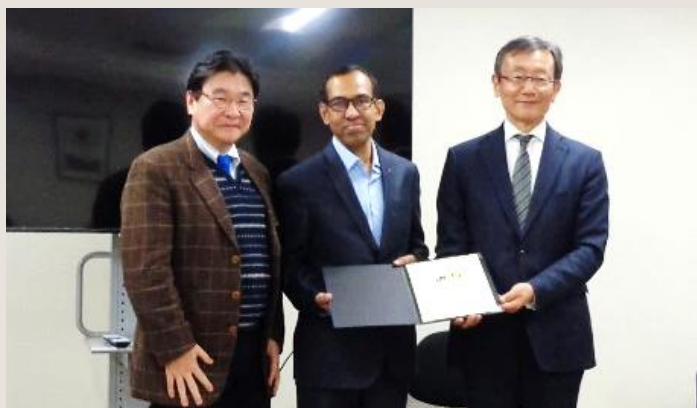
研究者交流

研究者交流は、産油・産ガス国と日本が研究者の派遣と受入を相互に行うことにより、石油産業分野の先端技術開発に携わる研究者育成を狙いとして実施しています。

2025年度は、アラムコ研究開発センターから1名、キングファハド石油鉱物資源大学（KFUPM）から1名を、石油学会委託事業として日本の研究機関に受け入れました。それぞれ、自らの研究テーマについて受入先の指導のもと研究を行い、JCCPにて成果報告会を行ったのちに修了証が授与されました。また、日本人研究者1名をアラムコ研究開発センターに約1ヵ月派遣し、「石油依存からの脱却を模索するサウジアラビアにおけるCO2資源化」について派遣先でレクチャーを行いました。



アラムコ研究開発センターからの研究者



キングファハド石油鉱物資源大学からの研究者



アラムコ研究開発センターへ派遣した研究者

2. 事業実績 ※末尾の添付資料をご確認ください

1. コース一覧

- －レギュラーコース
- －カスタマイズドコース（受入）
- －カスタマイズドコース（派遣）

2. 研究者交流事業（受入）実績

3. 研究者交流事業（派遣）実績

FY2025

技術協力事業

1. 事業報告



T-06(VN) MOA調印式

中央 : Mr. Luu Van Tuyen, President & CEO 左 : Mr. Nguyen Ngoc Tu, Vice President

産油・産ガス国の石油産業下流分野等が抱える技術的課題の解決を支援するため、基盤整備事業として、日本の技術・ノウハウの移転及び産油・産ガス国と共同で技術開発等を実施しています。2025年度は基盤整備事業として以下3段階に分け、事業課題の抽出（基礎調査事業）として2ヶ国3件、事業の実現性の確認（支援化確認事業）として6ヶ国8件、産油・産ガス国との共同プロジェクト（共同事業）として6ヶ国7件を、それぞれの段階で妥当性を確認しながら実施しました。

2025年度は事業実施協定を3件締結しました。新たに協定を結んで開始した共同事業は、UAEのADNOC Refiningとの「革新的技術とサステナビリティによる価値創造を目指した新たな製油所運営」、カンボジア工業科学技術革新省(MISTI)との「カンボジアにおけるカシューナッツ殻のバイオマス利用」、ベトナムのPETROLIMEXとの「石油製品物流における持続的な環境維持改善に関する共同事業」です。例えば、PETROLIMEXとの協定では、同社創立70周年に合わせ新設された新社屋にて調印式を行い、JCCP役員が海外カウンターパートの最高幹部と意見交換する場を持ちました。このように海外カウンターパートと技術協力を実施する過程で、調印式などの節目に、先方の幹部や要人と直接面談し、日本にとって重要な産油・産ガス国との新たな人財交流や技術協力に向けて意見交換を進めています。

技術協力事業

2. 事業実績

2025年度基盤整備事業実績一覧

事業番号	事業名	海外CP	国
基礎調査事業			
BS-01(IN)-2025	インドにおけるグリーン水素の液化・海上輸送に関する予備調査	GAIL, Amgreen, Reliance	インド
BS-02(SA)-2025	【期中採択】ゼオライト膜を用いたCO2回収・資源化技術導入の可能性調査（サウジアラビア）	Aramco	サウジアラビア
BS-03(SA)-2025	【期中採択】合成ガスからのSAF一段式製造技術導入の可能性調査（サウジアラビア）	Aramco	サウジアラビア
支援化確認事業			
P-01(SA)-2025	日本・アラムコの製油所間の課題解決事業	Aramco	サウジアラビア
P-02(AE)-2025	我が国エネルギーの安定供給に資するADNOCグループの海域環境保全向上に向けた支援事業	ADNOC	UAE
P-03(OM)-2025	ソルガムを原料とする次世代燃料生産の事業性調査	OQ	オマーン
P-04(ID)-2025	砂糖黍残渣（リカス）等を原料とする次世代燃料生産の事業性調査	PERTAMINA	インドネシア
P-05(VN)-2025	ベトロベトナムオイル社（PVOIL）の事業高度化に向けた技術協力	PVOIL	ベトナム
P-06(TH)-2025	プラカノン製油所と新たなシーラチャー製油所を加えたノンチャック社の競争力強化の支援化確認事業（タイ）	BCP	タイ
P-07(TH)-2025	日本の最新検査技術導入による天然ガス移送設備管理のデジタルトランスフォーメーション支援（タイ）	PTT	タイ
P-08(VN)-2025	【期中採択】LPG充填プロセスのDX導入によるオートメーション化支援化確認事業（ベトナム）	PV Gas LPG	ベトナム
共同事業			
T-01(AE)-2025	革新的技術とサステナビリティによる価値創造を目指した新たな製油所運営	ADNOC Refining	UAE
T-02(OM)-2025	オマーンOQでの蒸気システム最適化プログラム（Steam System Optimization Program:SSOP）のパイロット事業	OQ	オマーン
T-03(IQ)-2025	イラク南部地域の石油精製施設等における地層水処理技術導入に関する事業	PRDC (BOC)	イラク
T-04(ID)-2025	ゴム植林によるカーボン・クレジット創出に関する方法論策定及び植林計画立案	PERTAMINA	インドネシア
T-05(VN)-2025	バーコードラベルを用いたLPGボンベの流通管理能力の改善に関する共同事業（ベトナム）	PV Gas PV Gas LPG	ベトナム
T-06(VN)-2025	石油製品物流における持続的な環境維持改善に関する共同事業（ベトナム）	Petrolimex	ベトナム
T-07(CB)-2025	カンボジアにおけるカシューナッツ殻のバイオマス利用	MISTI 工業科学技術革新省	カンボジア

FY2025

連携促進事業

1. 事業報告

年1回東京で開催する国際シンポジウムを筆頭に各種の国際会議やネットワーク会議などを実施することで、海外トップマネジメント層と直接対話を行い、情報交換、技術交流及び人的交流の促進を図っています。

国際シンポジウム

JCCP国際シンポジウムは、JCCP設立以来毎年1回開催し、産油・産ガス国の政府機関・国営石油会社などから大臣・次官級要人、経営幹部や専門家を招聘し、日本の石油関連企業幹部と共に実施しています。シンポジウムの場のみならず個別に設定する面談を含め、リーダー同士による意見交換や情報共有を通じて、我が国の石油・天然ガス供給安定化に向け協力して取り組むべき課題等を明らかにし、人的交流を通して産油・産ガス国との関係維持・強化を図る場となっています。

テーマは、毎年、石油・ガス産業を取り巻く環境や情勢を踏まえ、その時々々の動向や重要課題に応じて設定しています。これまで、人口動態の変化に伴う需給変動、環境問題の深刻化、産油・産ガス国での中核人財の自国民化、シェールオイル・シェールガス革命、地政学的課題への対応などを取り上げました。近年では、カーボンニュートラルに向けた持続可能エネルギー、エネルギートランジション、CCUS・水素・e-fuel等の次世代技術、DXやAIの活用、エネルギー安全保障、サプライチェーン強靱化、次世代リーダー育成、多様な人財の活躍推進、人財開発及び人的資本経営等を主要なテーマとして取り上げています。

新型コロナ禍が落ち着いた2022年度には、3年ぶりに対面形式とリモート形式を組み合わせたハイブリッド形式で開催し、より多くの関係者が参加しやすい形としました。2023年度は、対面形式による深い議論や個別面談の重要性にかんがみ、海外講演者と経済産業省・日本企業関係者が対面で交流する形で開催しました。2024年度は、「持続可能社会への道を切り拓くエネルギー国際協力ー競争から共創、そして協奏へ」をメインテーマとして、エネルギー分野における多様かつ重層的な協力関係の重要性を指摘し、課題解決に向けた国際連携の必要性を確認しました。



第44回JCCP国際シンポジウム

FY2025

2. 事業実績

第44回 国際シンポジウム

2025年度は、第44回を迎えた国際シンポジウムを2026年1月29日に、約260名の参加者を迎え、国内外要人の講演者を得て、対面形式で開催しました。7ヶ国12名の講演者は、「揺れる世界、ソフトパワーが紡ぐサステナビリティ -エネルギーの共創と進化」のメインテーマのもと、エネルギー分野における相互理解と信頼に基づく協力の重要性を再確認するとともに、課題解決に向けた意見交換や情報共有を行いました。

基調講演では、国内外の政府関係者が政策的・経営的な立場から、「ソフトパワー」「共創」「進化」の重要性について論じ、世界的な緊張が高まる中においても、持続可能な未来の実現に向けて国際協力を深化させる必要性が示されました。

セッション1「みらいを切り拓く人財戦略」では、エネルギー転換期に対応する人的資本戦略、ESGと人財戦略を軸としたサステナビリティの取組、能力可視化による最適配置及び技術承継の取組が紹介されました。また、AI活用を踏まえた経営や、業務特性・企業文化に即した人財開発の重要性について、将来を見据えた取組が共有されました。セッション2「社会実装へ向けたネットゼロ革新技术」では、低炭素社会の実現に資する技術開発や地域連携、国際サプライチェーン構築に関する取組が紹介され、ネットゼロ・脱炭素の社会実装には、技術や企業努力に加え、政策・金融面での支援を含む環境整備が重要であることが共有されました。

本シンポジウムは、エネルギー分野における国際協力と技術革新を促進し、持続可能な未来への道を切り拓くための重要なプラットフォームとなることを目指します。



セッション風景

FY2025

第44回 国際シンポジウム

基調講演・特別講演

基調講演では、VIPたちが「共創」「進化」の重要性を指摘しました。田中伸男元IEA事務局長からは、エネルギー安全保障と脱炭素の同時達成に向け、国や組織を越えた国際連携と共創の重要性が示されました。サウジアラビアのマジェド・ヒンディ・アルウタイビ次官は、エネルギー安定供給を基盤とした信頼を「ソフトパワー」として、多様なエネルギーを組み合わせ、国際連携を通じた持続可能で安定的なエネルギー供給体制への主導的役割を果たしたいとしました。UAEのマリアム・アルスウェイディ上級副社長は、両国の女性キャリア開発友好委員会（FCW）から展開された10年間の取組と成果や、新たな取組としてクロスボーダー・メンタリングを紹介しました。特別講演では、フェシャラキ博士が、不安定な国際情勢の中でも世界の石油・ガス需要は急減せず、エネルギー転換期においても石油・LNGが重要な役割を果たし続けるとしました。



田中 伸男
タナカグローバル株式会社CEO
(元国際エネルギー機関 事務局長)



マジェド ヒンディ アルウタイビ
サウジアラビアエネルギー省
石油・ガス担当次官



マリアム サーレム アル スウェイディ
アブダビ国営石油会社（ADNOC Drilling）
シェアドサービス部門 シニアヴァイスプレジデント



フェレイドウン フェシャラキ
FACTSグローバルエナジー
名誉会長

FY2025

第44回 国際シンポジウム

セッション1 “みらいを切り拓く人財戦略”

岡田元経済産業審議官は、事業拡大に伴い必要となる新たな人財や専門性を如何に確保・育成するかご自身の経営経験から述べ、E&P（開発・生産）の本質でリスクに挑んできた石油産業の新たな挑戦への期待が示されました。UAEのアルアワディ副社長からは、ESGと人財戦略を軸としたサステナビリティと具体事例が紹介され、事業成長と社会的責任を両立させる取組が示されました。マレーシアのイスラフディン上級副社長・最高人事責任者は、エネルギー転換期に対応するため、人財育成の取組や、将来スキル・組織・企業文化を一体的に変革する人的資本戦略を紹介しました。寺嶋部長からは、ジョブ型人財マネジメントと能力の可視化による、スキルマップに基づく最適配置と技術承継の実現について説明されました。ディスカッションでは、人財戦略を巡り、AI活用を前提とする経営の在り方や、業務特性・企業文化への理解を踏まえた人財開発及び育成の重要性について、活発な意見交換が行われました。

セッション2 “社会実装へ向けたネットゼロ革新技术”

サウジアラビアのアルオタイビR&Dセンター長からは、低炭素社会に向けた最先端技術と研究開発の取組による持続可能なエネルギーの未来像が示されました。オマーンのアルカルーシシニアアドバイザーからは、技術革新と経済性を両立させる脱炭素の最新動向とともに、エネルギー転換がもたらす新たな価値と可能性が示されました。インドネシアのムラザ副社長からは、ダウンストリームの高度化と地域連携を通じ、アジアでの持続可能エネルギーの中核拠点となることを目指すとされました。松本リーダーからは、CO₂回収技術開発から大規模プロジェクト遂行、国際連携によるサプライチェーン構築まで、エンジニアリング面の強みが示されました。ディスカッションでは、ネットゼロ・脱炭素を社会実装するため、技術の組合せ、事業性、社会受容性を重視する実務的取組の重要性が共有されました。また、技術や企業努力に加え、政策や金融による後押しを含む「持続可能な脱炭素」を支える環境整備の必要性が示されました。



セッション1 講演者



セッション2 講演者

第44回 国際シンポジウム

第44回 JCCP 国際シンポジウム 揺れる世界、ソフトパワーが紡ぐサステナビリティ ー エネルギーの共創と進化

日時▶ 2026年1月29日(木) 10:00～17:30 ネットワーキングランチ 12:00～13:30
会場▶ オークラ東京 プレステージタワー 1F 平安の間



Website

(敬称略)

10:00 - オープニング/基調講演・特別講演

挨拶:

(一財) JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 理事長 / コスモ石油(株) 代表取締役社長 社長執行役員 西 克司
経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部長 和久田 肇

講演者:

タナカグローバル株式会社 CEO (元国際エネルギー機関 事務局長) 田中 伸男
サウジアラビアエネルギー省 石油・ガス担当次官 マジェド ヒンディ アルウタイビ / サウジアラビア
アブダビ国営石油会社 (ADNOC Drilling) シェアドサービス部門 シニアヴァイスプレジデント マリアム サーレム アル スウェイディ / UAE
FACTSグローバルエナジー 名誉会長 フェレイドウン フェシャラキ / アメリカ

12:00 - ネットワーキングランチ

13:30 - セッション1 "みらいを切り拓く人財戦略"

座長:

ENEOS株式会社 常務執行役員 寺本 光司

講演者:

一般財団法人 国際経済交流財団 顧問 (元経済産業審議官) 岡田 秀一
アブダビ国営石油会社 (ADNOC) サステナビリティ&ESG担当 ヴァイスプレジデント イーマン アルアワディ / UAE
マレーシア国営石油会社 (ペトロナス) シニアヴァイスプレジデント&グループ最高人事責任者 ルスラン ハリーム イスラフディン / マレーシア
ENEOS株式会社 技術計画部長 寺嶋 文隆

コーヒーブレイク

15:30 - セッション2 "社会実装へ向けたネットゼロ革新技术"

座長:

日揮グローバル株式会社 執行役員、プロセステクノロジー本部 本部長 唐澤 俊之

講演者:

アラムコ R&Dセンター ディレクター ファイサル オタイビ / サウジアラビア
OQ グループCEOシニアアドバイザー アル ムティール アル カルーシ / オマーン
プラティナ 副社長・副最高経営責任者 オキ ムラザ / インドネシア
日揮ホールディングス株式会社 サステナビリティ協創ユニット、インキュベーショングループ、CO₂マネジメントチーム、チームリーダー 松本 淳

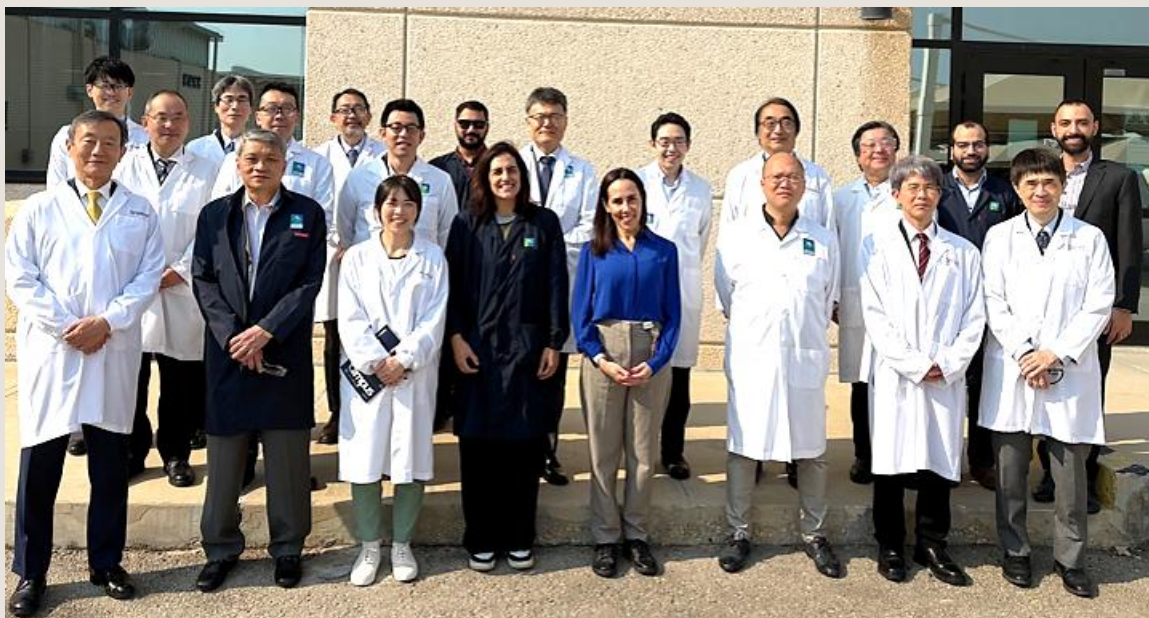
17:30 - クロージング

FY2025

日本サウジアラビア合同シンポジウム（研究・技術）

2025年11月10日にサウジアラビア王国アラムコ研究開発センターにおいて、アラムコ、石油学会及びJCCPの共催で第34回日本サウジアラビア合同シンポジウム(研究・技術)を開催しました。

「Sustainable Energy and Circular Carbon Solutions」をテーマに「Sustainable Energy Solutions」「Carbon Management and Capture」「Sustainable Chemicals and Fuels」の3セッションにて15件の講演（日本からは7件の講演）があり、約100名の方が参加し活発な質疑応答が交わされました。



アラムコ研究開発センターの視察と意見交換を経て記念撮影

日本クウェート合同シンポジウム（研究・技術）

2026年2月10日～11日にKISR石油研究センターにおいて、KISR、KNPC、石油学会及びJCCPの共催で第22回日本クウェート合同シンポジウム(研究・技術)を開催しました。開会式ではKISRのDirector General、駐クウェート大使、KNPCのCEO及びJCCP常務理事が登場しました。「Advancement in Petroleum Refining industries」をテーマに6つのセッションに分かれて25件の講演(日本からは6件)があり、約100名の方が参加し活発な質疑応答が交わされました。



KNPC初の女性CEO ファハド・アフマド・アルハティブ氏との記念写真

FY2025

FCWフォーラム

2015年、UAEと日本の石油関連業界の女性活躍推進と女性のキャリア開発を目的にUAE国務大臣やJCCP幹部から構成されるFCW委員会（Friendship Committee for Women Career Development）が設立され、毎年UAEと日本でFCWフォーラムが半期に1回ずつ開催されています。

第20回FCWフォーラム

活動10周年を迎えた2025年度には、5月22日（木）に、東京にて第20回「未来へつなぐ～持続可能な社会とエネルギー産業のために～」を開催し、120名が参加しました。マイサ アルシャムシUAE国務大臣、ファティマ アルヌアイミADNOC Gas CEO、亀田綾子大林組執行役員のスピーチ、第一回参加の池田幸代INPEX執行役員、所田綾子千代田化工建設人事部リーダーの先輩講演、ワークショップ発表では、「My Leadership Journey～持続可能な社会とエネルギー産業のために～」と題し、中東4か国と日本側委員が、3グループから報告発表されました。パネルディスカッションでは「世代をつなぐエール～これまでの10年、これからの10年～」と題しパネリストが取組内容を紹介しました。



マイサ アルシャムシUAE国務大臣



亀田綾子 大林組執行役員



パネルディスカッション

FY2025

第20回FCWフォーラム

第20回 Friendship Committee for Women Career Development フォーラム

未来へつなぐリーダー ～持続可能な社会とエネルギー産業のために～

日時 2025年5月22日(木) 13:30～17:00(交流会17:00～18:00) 会場 TKPガーデンシティPREMIUM京橋 / 京橋エドグラン22F ホール22A

主催 一般財団法人JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 言語 日本語、英語(同時通訳有り)

(敬称略)

13:30-13:40 オープニング

挨拶：アラブ首長国連邦 国務大臣 H.E. Dr. Maitha salem Alshamsi

(一財)JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 理事長 / コスモ石油株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 西 克司

経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部長 和久田 肇

13:40-13:50 リーダースピーチ

ADNOC Gas, Chief Executive Officer / UAE Ms. Fatema Al Nuaimi

13:50-14:05 インスパイアリング・トーク

株式会社大林組 執行役員 グリーンエネルギー本部 亀田 綾子

14:05-14:15 プレゼンテーション「Achievement of FCW Committee」

ADNOC Gas, Digital Division, Vice President & FCW Committee Secretary / UAE Ms. Lamya AlNuaimi

(一財)JCCP国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 広報・ダイバーシティ部 部長 尾内 三永子

14:15-14:25 FCWに参加して、そして今

株式会社INPEX 執行役員 欧州・中東事業本部 本部長補佐 池田 幸代

千代田化工建設株式会社 人事部 健康経営・ダイバーシティ推進セクション セクションリーダー 所田 綾子

14:25-14:35

休憩

14:35-15:10 ワークショップ発表 "My Leadership Journey ～持続可能な社会とエネルギー産業のために～"

グループ1 【ダイバーシティ】 グループ2 【カーボンマネジメント】 グループ3 【人材開発】

15:10-15:25 クロスメンタリングプログラム (ADNOC×Japanese Companies) 実施報告

ADNOC Sour Gas, Senior Vice President, Shared Services / UAE Ms. Mariam Salem Al Suwaidi

(一財)JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関 上級フェロー 有井 哲夫

15:25-15:40

休憩

15:40-16:40 パネルディスカッション「世代をつなぐエール～これまでの10年、これからの10年～」

モデレータ：株式会社YeeY 共同創業者/代表取締役 島田 山香

パネリスト：経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室 室長補佐 遠藤 佐知子

ADNOC, Vice President, Reserves Management Division / UAE Ms. Budoor Al Shehhi

OQ, Senior Chemist Technical Services Laboratory / Oman Ms. Maha Al Braiki

東京科学大学 社会連携・DE&I本部 マネジメント教授 野村 淳子

出光興産株式会社 執行役員 先進マテリアルカンパニー機能舗装材事業部長 北村 奈美

ENEOS株式会社 常務執行役員 布野 敦子

16:40-17:00 クロージング

17:00-18:00 交流会

FY2025

第21回FCWフォーラム

第21回は、第1回開催地アル・アインの世界遺産「カスル・アル・ムワイジ」で開催されました。マイサ・アルシャムシ大臣、岡庭大使、長谷川経済産業省資源エネルギー庁国際資源戦略室長の他約230名が参加する中、過去10年で成し遂げた成果や進歩を振り返り、両国や関係参加国の知見を融合した、持続可能な未来に向けた女性リーダーシップの重要性について改めて発信しました。ファティマ・アルヌアイミCEOは、ADNOCが2016年にジェンダーバランス目標を掲げて以来、女性リーダー輩出が加速していると強調し、本フォーラムへ参加経験が、自身のキャリアで貴重な機会になったと発言。亀田綾子大林組執行役員は、すべての人は誰かの刺激となり、未来を導いていると意識することが、サステナブルリーダーシップに繋がると述べました。UAE、オマーン、日本からの参加者が4グループに分かれ、3日間議論を重ねたワークショップ成果発表では、多くの重要な気付きが共有され、次世代リーダー候補者として、未来を切り拓くアイデアが示されました。

UAE-Japan Women Friendship Committee (FCW) Celebrating 10 Years of Partnership and Progress



左：マイサ アルシャムシUAE国務大臣

第21回FCWフォーラム



BUILT TO LAST 10 YEARS OF WOMEN LEADING SUSTAINABLE COMMUNITIES

UAE-Japan Women Friendship Committee

FORUM AGENDA

Thursday, 20th November 2025



Time	Agenda Item
19:10 – 19:17	Opening Show
19:17 – 19:24	Keynote HE Dr. Maitha Al Shamsi
19:24 – 19:29	Remarks HE Ken Okaniwa
19:29 – 19:35	Keynote JCCP Prof. Haruhiko Ando
19:35 – 19:37	Keynote ADNOC Ms. Fatema Al Nuaimi
19:37 – 19:40	FCW Video
19:40 – 19:50	FCW Journey and Achievements Ms. Mariam Al Suwaidi
19:50 – 19:55	Alumni Insights: TedTalk
19:55 – 20:10	Inspiring Talk with Interactive Poll Dr. Ayako Kameda
20:10 – 20:35	Workshop Outcomes Certificates
20:35 – 20:45	for Participants
20:45 – 20:55	Gift Exchange and Group Photo
20:55 – 21:00	Closing
21:00 – 22:00	Dinner



FY2025

海外事務所から

JCCPでは、中東地域の重要拠点として、サウジアラビアにアル・コバール事務所、UAE（アブダビ）に中東事務所を配置しています。

各事務所の担当国は、アル・コバール事務所がサウジアラビア、クウェート、イラク、バーレーン、中東事務所がUAE、カタール、オマーン、イランです。主な業務として、これら担当国における各事業を円滑かつ安全に実施するための現地支援や、最新の情勢・情報の収集を行っています。

2025年度は、10月にアル・コバール事務所、翌1月に中東事務所の所長が交代しました。他方、中東情勢緊迫化に伴い、3月中旬に一時帰国しています。

JCCP設立以来、中東の産油・産ガス国の政府及び国営石油・ガス会社等と築いてきた強固なネットワークは、私たちの最大の強みです。今後も、石油・ガスダウンストリーム分野に加え、エネルギー転換に伴う持続可能エネルギー分野において、日系企業・団体の皆様の事業展開をより一層力強く支援してまいります。



日サウジエネルギー協議



サウジアラビア エネルギー省にて



ADNOC Gas Drilling本社にて



ADNOCグループ イノベーション拠点にて

参照：2025年度（令和7年度）事業実績

人財育成事業

1. コース一覧
 - －レギュラーコース
 - －カスタマイズドコース（受入）
 - －カスタマイズドコース（派遣）
2. 研究者交流事業（受入）実績
3. 研究者交流事業（派遣）実績

2025年度人材育成事業

レギュラーコース

分類		コーステーマ	開催日程
リーダーシップ・マネジメント	IT-4	石油産業の戦略マネジメント－次世代リーダーのための－	7/1-7/11
	IT-8	製油所・技術マネジメント－次世代技術リーダーのための－	12/2-12/12
	IT-9	若手リーダーシップ	12/9-12/19
人財開発	IT-1	人的資本管理	5/20-5/30
	IT-7	人的資本開発	11/11-11/21
物流・SCM	IT-2	石油物流	6/3-6/13
天然ガス関連技術	TR-6	天然ガス・LNG利用技術	10/14-10/31
カーボンニュートラル	TR-1	カーボンニュートラルの達成に向けたエネルギー転換	5/13-5/30
	IT-6	CCS/CCUS 技術と戦略	9/16-9/26
プロジェクトマネジメント	TR-3	石油産業におけるプロジェクトマネジメント (1)	6/3-6/20
	TR-8	石油産業におけるプロジェクトマネジメント (2)	11/11-11/28
	IT-10	石油・ガス開発関連向けプロジェクトマネジメント	2026/2/3-2/13
DX技術（計装含む）	IT-11	製油所のデジタルトランスフォーメーション	2026/2/3-2/13
	TR-2	製油所の計装制御	5/13-5/30
	TR-7	APCをはじめとするプロセス制御技術	10/14-10/31
石油関連技術とメンテナンス	IT-3	サーキュラーエコミー	6/17-6/27
	IT-5	製油所新設・高度化－次世代のための－	7/1-7/11
	TR-4	静機器の信頼性向上（腐食マネジメント）	6/3-6/20
	TR-5	回転機器の信頼性向上	9/16-10/3

カスタマイズドコース（受入）

研修生受入	CPJ-2	女性のキャリア開発にむけたマネジメントとリーダーシップ	5/14-5/23
	CPJ-3	イラン（MOP、NIORDC）プロジェクトマネジメント	9/16-9/26
	CPJ-4	Operational Excellence（ARAMCO）	10/21-10/31
	CPJ-6	Energy Transition for Decarbonization（東南アジア）	2026/2/24-3/6
	CPJ-7	脱炭素に向けたエネルギー転換(MOE)	2026/1/13-1/23

カスタマイズドコース（専門家派遣）

専門家派遣		FCW女性活躍推進（ADNOC）	11/16-11/22
		女性研究者交流（ADNOC）	2026/2/8-2/12

2.9 研究者受入事業

※ 研究者受入事業は2019年度から研究者交流事業のなかの研究者受入として実施。

年度	産油国機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
1993	KFUPM	Dr. Abdullah S. Al-Zakri Dr. Ali G. Ma'adhah Dr. Yaw D. Yeboah	今後の研究交流の進め方についての協議するため、及び研究者受入機関候補先の視察のため招聘した。訪問先は次の通り。 資源エネルギー庁 海外協力分科会委員との会議 出光興産(株)研究所 物質工学工業技術研究所 京都大学、東京工業大学		4月12日～ 4月20日
1994	KUFPF	Dr. Sulaiman Salih Al-Khattaf	日本石油(株)中央技術研究所	Synthesis and Characterization of cracking zeolite-amorphous composite catalysts	7月18日～ 11月30日
1995	KFUPM	Dr. Hussein Saleh Almuallim	東京工業大学 情報理工学研究所	人口知能の触媒反応工学研究への応用	7月18日～ 11月30日
1995	KISR	Dr. Abdulhadi Al-Otaibi Dr. Adnan Al-Homoud Dr. Jasem Al-Besharah Dr. Mohammed Salman	今後の研究交流の進め方についての協議するため、及び研究者受入機関候補先の視察のため招聘した。訪問先は次の通り。 資源エネルギー庁 石油公団(採油増進技術に関する研究協力) 海外協力分科会委員との会議 出光興産(株)研究所 日本石油(株)中央技術研究所、ジャパンエナジー総合研究所 石油産業活性化センター		2月26日～ 3月6日
1996	KUFPF	Dr. Syed Ahmed Ali	石油産業活性化センター 石油基盤 技術研究所 高機能触媒研究室	Thermodynamic Considerations in Hydrotreating of Petroleum Fractions	8月26日～ 9月30日
1997	KFUPM	Dr. Jamal Mohammed S. Salamatallah Dr. Hassan Hashem G. Al-Suaibi Al-Ghamdi Dr. Mohammed Elias Biswas	日本石油(株)中央技術研究所 石油産業活性化センター 石油基盤技術研究所 高機能触媒研究室	FCC/パイロットプラントの運転技術の研究 水素化分解触媒の研究	7月15日～ 9月2日
1997	KISR	Dr. Abdulwahab Al-Baroud Dr. Salah Enezi	(株)ジャパンエナジー総合研究所	水素化精製パイロットプラントの設計、管理、実験技術	2月4日～ 2月19日
1998	KUFPF	Mr. Khalid Jafar Mohammed Al-Nawad Mr. Mohammed Abdul Bari Siddiqui Mr. Khurshid Alam	PEC高機能触媒研究室 日本石油(株)中央技術研究所 PEC高機能触媒研究室	水素化分解触媒の研究 FCC触媒に係わる研究 ゼオライト触媒の研究	8月19日～ 10月2日 8月19日～ 9月25日 8月16日～ 10月2日
1998	KISR	Dr. Abdulazeem M. J. Marafi Dr. Hisham Al-Henayyan	日本石油(株)中央技術研究所	Training on the evaluation of Petroleum and Petroleum Products	10月11日～ 10月30日 10月11日～ 10月23日
1998	KAAU	Dr. Abdul-Rahim A. Samarkandy Dr. Uthman M Dawoud	今後の研究交流の進め方についての協議するため、及び研究者受入機関候補先の視察のため招聘した。 訪問先は次の通り。 資源エネルギー庁、石油産業活性化センター、海外協力分科会委員との会議、業技術院物質工学工業研究所、大阪大学工学部応用化学科		7月12日～ 8月22日
1999	KUFPF	Dr. Aymen Abdulmajeed Kayal Dr. Shakeel Ahmed	日石三菱(株) 東京工業大学 石油産業活性化センター石油基盤技術研究所 高活性触媒研究室	石油を中心とする技術移転制度と特許関係の実態調査 重質油の水素化分解用触媒の研究	8月10日～ 8月27日 8月10日～ 9月14日
1999	KISR	Mr. Faisal Salman Al-Humaidan Mr. Mubarak Muhammed Mejabel	(株)ジャパンエナジー精製・技術部精製技術センター	パイロットプラントのメンテナンス	7月7日～ 7月28日
1999	KAAU	Dr. Iqbal Mohammed Ismail Dr. Abdul-Ghani Hamza Sulaiman Dr. Abdul-Rahim A. Samarkandy	横浜国立大学工学部物質工学科 今後の研究交流の進め方についての協議するため、及び研究者受入機関候補先の視察のため招聘した。 訪問先は次の通り。 資源エネルギー庁、石油産業活性化センター、海外協力分科会委員との会議、千代田化工総研、化学技術開発センター、東京大学、東京工業大学、京都大学	新しいリチウム塩を複合化したポリエチレンオキッド錯体の電気化学的特性 重質油の水素化分解用触媒の研究	11月25日～ 12月7日 5月24日～ 5月28日
2000	KUFPF	Dr. Mohammad Ashraf Ali Dr. Azfar Hassan	横浜国立大学 石油産業活性化センター 石油基盤技術研究所 高活性触媒研究室 東京大学	重質油の水素化分解用触媒の研究 重質油の水素化分解用触媒の研究	8月21日～ 9月26日 6月26日～ 7月28日
2000	KISR	Dr. Dawoud Bahzad Mr. Abdul Mohsen Akbat	出光興産(株)中央研究所 工業技術院物質工学工業技術研究所	重質油の水素化分解に関する研修	9月4日～ 9月28日
2000	KAAU	Dr. Iqbal Mohammed Ismail Dr. Uthman M Dawoud	横浜国立大学工学部物質工学科 サウジアラビアの産業・民生両面で問題の大きい「腐食、防食」分野の研究者を日本に長期派遣したいという事で、関係先訪問のため招聘した。訪問先は次の通り。 日揮、住友金属総合研究所、出光興産中央研究所、東京大学、大阪大学	新しいリチウム塩を複合化したポリエチレンオキッド錯体の電気化学的特性	1999年 7月14日～ 2000年 7月7日 5月29日～ 6月2日

年度	産油国 機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
2001	KFUPM	Dr. Shakeel Ahmed	高機能触媒研究室	VGO水素化分解触媒の特性、安定性及び性能評価	7月30日～ 8月17日
		Mr. Abdulgader Abdulaziz Maghrabi	日石菱油エンジニアリング(株)	HS-FCCのデモンストレーション用プラントの設計	7月16日～ 8月31日
	Saudi Aramco	Mr. Muhsin D Al-Khudhairi	日石菱油エンジニアリング(株)	HS-FCCのデモンストレーション用プラントの設計	7月16日～ 8月31日
	KAAU	Dr. Mohammed Ismail Abdulsalam	東京大学大学院 工学系研究科 篠原正 助教授	すきま腐食のモデル化に関する研究	5月21日～ 9月14日
	KACST	Mr. Nasser M.D. Al-Harbi	東北大学大学院 工学研究科 山田宗慶 教授	水素化精製触媒の水素化脱硫、芳香族水添、水素化分解の基本性能における改良の研究	9月20日～ 12月12日
	KISR	Mr. Abdul Majeed Al-Mutawa	(株)ジャパンエナジー 精製技術センター	石油の分析試験に関する研修	9月9日～ 10月11日
		Mr. Abdullatif Dashti			5月24日～ 6月23日
2002	KFUPM	Dr. Syed Ahmed Ali	TOCAT4 高機能触媒研究室 新日本石油研究所	水素化分解触媒の調製と特性と評価	6月12日～ 6月28日
		Dr. Mohammad Ashraf Ali	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	重質油水素化分解の貴金属触媒の調整	6月12日～ 7月9日
	KAAU	Dr. Mohammed Ismail Abdulsalam	独立行政法人 物質・材料研究機構 篠原正 ディレクター	モレ法で測定した金属溶解速度に基づくすきま内液性の物質移動解析	8月15日～ 10月7日
	KACST	Mr. Saud Abdulaziz Al-Drees	京都大学大学院 工学研究科 出光興産(株) 中央研究所	ニッケルを含むヘキサアルミネート触媒によるメタンの部分酸化からの合成ガス製造	8月20日～ 11月10日
	KISR	Mr. Ayedh Al-Mutairi	出光興産(株) 中央研究所	原油直接品質改善プロセスのパイロットプラント運転修得と熱的解析	5月24日～ 6月23日
		Mr. Masoud Al-Marri			
2003	KFUPM	Dr. Zaki Shaker Seddigi	東京大学 工学系研究科 大久保達也 助教授	ミクロ及びメソポーラス材料の合成とその特性に関する研究	7月7日～ 7月14日
		Dr. Shakeel Ahmed	京都大学大学院 工学研究科 江口浩一 教授	水-ガスシフト反応に関する研究	7月14日～ 8月8日
		Dr. Mohammad Ashraf Ali	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	水素化分解触媒の評価	7月23日～ 8月20日
	KAAU	Dr. Mohammed Ismail Abdulsalam	独法)物質・材料研究機構 篠原正 ディレクター	すきま内腐食の電気化学特性の研究	8月18日～ 9月11日
	KISR	Mr. Abdul-Wahab S. Al-Hendi	コスモ石油(株) 中央研究所	軽油の深度脱硫のためのパイロットプラントの管理運転の研修	1月19日～ 1月30日
		Mr. Ahmed Al-Otaibi	触媒化成工業(株) 触媒研究所	残油アップグレーディングのためのパイロットプラントの管理運転の研修	2月2日～ 2月18日
2004	KFUPM	Mr. Musaed Salem M. Al-Ghamdi	島根大学 総合理工学部 岡本康昭 教授	MoS ₂ /Al ₂ O ₃ およびCoMoS ₂ /Al ₂ O ₃ 触媒の水素化脱硫活性に及ぼすホウ素の添加と調整法の影響	7月20日～ 8月20日
		Dr. Sulaiman S. Al-Khataff	秋田大学 工学資源学部 中田真一 教授、元田慎一助 教授	ペロブスカイト型酸化物触媒によるプロピレンの酸化反応に関する研究	7月26日～ 8月16日
	KAAU	Dr. Mohammed Ismail Abdulsalam	東京海洋大学 海洋工学部	海洋性大気環境下における亜鉛めっき鋼板およびアルミ合金の耐食性	8月11日～ 9月8日
	KISR	Dr. Mahmoud Al-Shamali	(株)ジャパンエナジー 精製技術センター、分析センター 丸山文夫 主任研究員	石油評価の研修プログラム	6月28日～ 7月16日
		Mr. Ayyad Toman Al-Dhafeeri			
	UAEU	Dr. Ali H. M. Hassan Al-Marzouqi	東北大学大学院 工学研究科 猪股宏 教授	原油中の重質成分(C ₇ +)のキャラクタリゼーション	7月5日～ 8月13日
2005	KFUPM	Dr. Nadhir A. H. Al-Baghl	北海道大学大学院 工学研究科 増田隆夫 教授	シリカライト-1とZSM-5ゼオライト内のベンゼン、p-キシレン及びm-キシレンの拡散係数の測定	6月18日～ 7月21日
		Mr. Abdul-Rahman F. Al-Betar	広島大学大学院 工学研究科 塩野毅 教授	シングルサイト触媒によるオレフィン重合に関する研究	6月28日～ 7月27日
	KAAU	Dr. Hisham Saeed Bamufleh	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	軽油脱硫への運転条件の影響の研究	7月4日～ 7月29日
	KISR	Mr. Naser Al-Enzi Mr. Jamal Al-Fadhli	出光興産(株) 中央研究所 太田信之 テーマリーダー	パイロットプラントの管理、運転およびデータ解析	6月19日～ 7月16日
	UAEU	Dr. Samir I. Abu-Eishah	東京工業大学 理工学研究科 小菅人慈 助教授	共沸気液平衡データの測定とシミュレーション	6月22日～ 7月22日
2006	KFUPM	Dr. Abdulaziz Abdulla Shuaibi	群馬大学 工学部 斎藤三郎 教授	ラプラス変換による実数値の逆変換	6月19日～ 8月18日
		Dr. Hasan Ali Al-Muallem	東京大学大学院 工学研究科 相田卓三 教授	dendリマーに関する研究	7月30日～ 8月31日
	KAAU	Dr. Mohammed Ismail Abdulsalam	横浜国立大学 工学部 朝倉祝治 名誉教授	石油産業における防食・腐食技術指導者の教育法	8月3日～ 9月13日
	KACST	Mr. Ahmad Abdullah O. Al-Omar	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	軽油の水素化脱硫触媒の調製・評価	8月7日～ 9月12日
	KISR	Dr. Dawoud M. Bahzad	京都大学大学院 工学研究科 江口浩一 教授	燃料電池のための水素製造用触媒の調製と開発	6月12日～ 7月7日
		Ms. Khalidah M. S. Al-Dalama	島根大学 総合理工学部	Co(CO) ₃ NOを使用したCVD法による水素化脱硫触媒のキャラクタリゼーションに関する基礎的研究	6月12日～ 7月7日
	UAEU	Dr. Mohamed Humaid Mohamed Hassan Al-Marzouqi	神戸大学 工学部 応用化学科	メンブレンの作製とガス-液メンブレンコンタクターによるガス中の炭酸ガス除去のシミュレーションの構築	7月12日～ 8月22日

年 度	産油国 機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
2 0 0 7	KFUPM	Dr. Ali Osman Oncel	京都大学 防災研究所 橋本学 教授	サウジアラビアの油田地帯における地震メカニズム予知の研究	7月2日～ 8月10日、 8月27日～ 8月31日
			産業技術総合研究所 地震資源開発 西澤修 主幹研究員 研究部門 物理探査研究グループ	岩盤通過時の四次元地震波伝播の流体の影響	8月13日～ 8月24日
		Dr. Mohammad Naseem Akhtar	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	LPGから芳香族化合物への転化反応の研究	7月30日～ 9月7日
	KACST	Mr. Feras Ahmed Al-Shehri	島根大学 総合理工学部 岡本康昭 教授	Co(CO) ₃ NOを用いたCVD法による酸化チタン担持Co-MoS ₂ 触媒の表面構造に関する研究	7月5日～ 8月3日
			東北大学大学院 工学研究科 山田宗慶 教授	軽油の超深度脱硫触媒の失活に関する基礎研究	8月6日～ 9月3日
	KISR	Mr. Abdulwahab F.A.A. Al-Barood	㈱ジャパンエナジー 精製技術センター 松田健一 所長	軽油の水素化脱硫時の水素化脱硫触媒性能における窒素化合物の被毒の影響	6月28日～ 7月27日
		Dr. Abdulazeem M. J. Marafi	九州大学 産学連携センター 持田勲 特任教授	軽油留分中の硫黄、窒素及び多環芳香族化合物の分析における最新技術の活用	2月4日～ 2月29日
Saudi Aramco	Dr. Ali Mahmoud Al-Somali	触媒化成工業 若松触媒研究所 執行役員 福田盛男 所長	DAO水素化分解触媒のパイロットプラント操作に関する研究	11月25日～ 12月7日	
UAEU	Dr. Eisa Ali Hasan Ali Matroushi	京都大学大学院 工学研究科 稲室隆二 教授	管内の液滴及び気泡の合－および相互作用に関する研究	6月25日～ 7月25日	
2 0 0 8	KFUPM	Dr. Jaafar H. AlMutawa	京都大学 大学院情報学研究科 太田快人 教授	部分空間同定法を用いた工学システムの状態空間表現に関する研究	7月12日～ 9月5日
		Dr. Mohammed Abdulmajeed Aldaous	九州大学 先端物質化学研究所 尹聖昊 教授	CoMoZrO ₂ 触媒のLCO脱硫性評価	7月31日～ 8月25日
		Dr. Mohammad Naseem Akhtar	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	LPGから芳香族化合物への転化反応の研究	8月25日～ 10月2日
	KISR	Ms. Fatma Jassem	名古屋大学 大学院工学研究科 田川智彦 教授	メタン改質触媒の特性解析、マイクロリアクターの解析	7月7日～ 8月4日
		Dr. Hamza Albazzaz	鹿児島大学 工学部 甲斐敬美 教授	常圧残渣油の脱硫反応装置のコールドフローモデルの研究	1月13日～ 2月6日
		Dr. Narjes Ghaloum Dr. Ayman Al-Qattan Dr. Faisal Al-Humaidan	京都大学大学院 工学研究科 江口浩一 教授 他	燃料電池開発関連先訪問と第5回国際水素・燃料電池展 視察 & 講演会出席	2月22日～ 2月28日
	UAEU	Dr. Nayef Mohamed Ghasem	神戸大学大学院 工学研究科	UAEIにおける天然ガスからのCO ₂ 分離に用いる高分子多孔質膜の作製	7月22日～ 8月22日
	KACST	Mr. Issa Mohammed Abaalkheel	広島大学 大学院工学研究科 松山秀人 教授	シングルサイト触媒によるオレフィン重合に関する研究	10月3日～ 11月7日
	2 0 0 9	KFUPM	Dr. Muhammad Naseem Akhtar	北九州市立大学 国際環境工学部 浅岡佐知夫 教授	ヘキサン芳香族転化用新規触媒の開発
KACST		Mr. Mohammed Hassan H Almusawa	広島大学 大学院工学研究科 塩野毅 教授	シングルサイト触媒によるオレフィン重合に関する研究	6月1日～ 7月21日
UAEU		Dr. Eisa A Ali Matroushi	京都大学大学院 工学研究科 稲室隆二 教授	管内の液滴及び気泡の合－および相互作用に関する研究	7月1日～ 7月31日
KISR		Dr. Yussef Haji Mirza Sebzaly	コスモエンジニアリング㈱ 営業部長 三池哲也	ペーパー回収技術・回収方法・回収システムとペーパー回収システムの石油産業での応用に関する研究	2月15日～ 2月23日
		Dr. Mahmoud Ayeshe Al-Shamali	新日本石油㈱ 製造技術本部 技術部長 安達博治	ペーパー回収技術・回収方法・回収システムとペーパー回収システムの石油産業での応用に関する研究	2月24日～ 2月26日
Intevep		Dr. Omayra Zuleika Delgado Gonzalez	北海道大学大学院 工学研究科 増田隆夫 教授	担持触媒を用いた残渣と重質油の水蒸気雰囲気下の酸化的軽質化反応	10月6日～ 11月16日
2 0 1 0	KFUPM	Dr. Mohammad Mozahar Hossain	北海道大学大学院 工学研究科 増田隆夫 教授	酸化鉄系触媒を用いた水蒸気と超臨界水雰囲気中のオイル サント、ピチューメン等重質油の軽質燃料化	8月4日～ 9月15日
	KACST	Mr. Abdalmajeed Mohammad Algafiah	広島大学大学院 工学研究科 佐野庸治 教授	①ゼオライトの合成、②ヘテロポリ酸のカウンターカチオン交換、 ③海水からの層状ケイ酸塩へのガリウムイオンの濃集	6月18日～ 8月5日
	UAEU	Dr. Eisa A Ali Matroushi	京都大学大学院 工学研究科 稲室隆二 教授	管内の液滴及び気泡の合－および相互作用に関する研究	6月29日～ 7月28日
	KISR	Mr. Adel M S A Almutairi	九州大学 産学連携センター 持田勲 特任教授	石油留分油の分析及び脱硫触媒に関する教育	12月13日～ 12月25日
		Mr. Rashed Y Bouresli	九州大学 産学連携センター 持田勲 特任教授	石油留分油の分析及び脱硫触媒に関する教育	
	Intevep	Dr. Juan Carlos De Jesus Rodriguez	北海道大学 触媒化学研究センター 朝倉清高 教授	表面科学的手法による触媒表面解析	10月5日～ 11月26日
2 0 1 1	KFUPM	Dr. Mohammad Shamsuzzoha	東京工業大学 資源化学研究所 関宏也 准教授	分割蒸留塔のプロセス制御	6月30日～ 8月15日
		Dr. Nabil Al-Yassir	北海道大学 触媒化学研究センター 上田渉 教授	複合酸化物触媒の材料設計	7月11日～ 8月19日
		Dr. Oki Muraza	北海道大学大学院 工学研究院 増田隆夫 教授	ナノサイズゼオライトの開発と炭化水素改質触媒	7月11日～ 8月25日
	Intevep	Dr. Luis Felipe D'Elia Camacho	名古屋大学大学院 工学研究科 松田仁樹 教授	石油コークスを用いる新規炭素系機能材料の開発	9月7日～ 11月4日
	PRDC、MoO/Iraq	Mr. Sattar Jalil Hussein	日揮触媒化成㈱北九州事業所 触媒研究所	触媒性能評価技術の研究	11月1日～ 11月30日
		Mr. Khaleefa K. Uwaid	島根大学総合理工学部 久保田岳志 准教授		
	KISR	Dr. Narjes Ghaloum	京都大学 江口浩一 教授	炭化水素からの水素製造技術と触媒開発	2月6日～ 3月1日

年度	産油国 機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
2012	KFUPM	Dr. Mohammad Shamsuzzoha	東京工業大学 資源化学研究所 関宏也 准教授	石油精製および石油化学プロセスのプラントワイド制御	6月7日～ 7月30日
		Dr. Oki Muraza	北海道大学大学院 工学研究院 増田隆夫 教授	ナノサイズゼオライトの開発と炭化水素改質触媒への応用	6月12日～ 7月25日
	KACST	Dr. Mohammad Laffai M Alotaibi	横浜国立大学 朝倉祝治 名誉教授 (朝ベンチャーアカデミア)	腐食機構の基礎的研究	6月5日～ 7月20日
	UAEU	Dr. Ali Hilal Al-Naqbi	九州大学大学院 工学研究院 化学工学部門 梶原稔尚 教授	膜分離によるバイオ人工肝臓のための三次元培養法およびバイオリアクターに関する研究	6月20日～ 7月13日
	PRDC, MoO/Iraq	Ms. Saba Abdulridha Yousif Al-Rubaye	日揮触媒化成(株)北九州事業所 触媒研究所	石油精製触媒の評価に係る研究	9月11日～ 10月5日
		Ms. Ban Abdulrahman Ahme	島根大学総合理工学部 久保田岳志 准教授		
	KISR	Mr. Hassan A H M Tarish	横浜国立大学 朝倉祝治 名誉教授 (朝ベンチャーアカデミア)	新しい手法による腐食の電気化学的研究	9月19日～ 10月19日
2013	Intevep	Dr. Yilda Margot Romero Perez	島根大学総合理工学部 久保田岳志 准教授 三重大学大学院工学研究科 石原篤 教授	不均一系水素化脱硫触媒の調製とキャラクタリゼーション	10月24日～ 12月13日
	KACST	Mr. Mohammad Abdulrahman Alowirdy	広島大学大学院 工学研究科 塩野毅 教授	オレフィン重合に関する研究	6月11日～ 7月25日
	UAEU	Dr. Naeema Ibrahim Karam Aldarmak	東北大学大学院 環境科学研究科 Richard Smith 教授	重質油成分の低粘性化に資する固液平衡物性推算	6月24日～ 8月1日
	KFUPM	Dr. Muhammad Atiqullah	北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス科 寺野稔 教授	担持型ポリオレフィン触媒に関する研究	7月19日～ 8月28日
	Intevep	Dr. Gladys Esperanza Noguera Herrera	北海道大学 触媒化学研究センター 高橋保 教授 産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門 鷹薮利公 新燃料グループ長	有機金属を用いた有機合成重質油分解試験と生成物のキャラクタリゼーション	10月10日～ 11月15日、 11月18日～ 11月29日
	PRDC, MoO/Iraq	Mr. Omar Mahmood Khaleel Al-Azzawi	鳥取大学大学院工学研究科 片田直伸教授研究室	固体酸触媒の調製、特性解析、反応試験の研究、石油精製触媒の評価に係る研究	10月22日～ 11月8日、 11月12日～ 11月25日
		Mr. Ahmed Mohamed Joodi Al-Kinani	日揮触媒化成(株) 北九州事業所 触媒研究所		
	KISR	Mr. Mustafa A Al-Shamali	横浜国立大学 朝倉祝治 名誉教授 (朝ベンチャーアカデミア)	実験を伴った石油精製プラントの腐食と防食理論と実際の研究	1月8日～ 2月19日
2014	KFUPM	Dr. Palani Arudra, Research Scientist III, Center for Refining & Petrochemicals Department	北海道大学大学院工学研究院 有機プロセス工学部門 増田隆夫 教授	マクロサイズハイシリカZSM-5とZSM-11を用いたC6オレフィンの接触分解	7月1日～ 8月6日
	UAEU	Dr. Mohammad Sayem Mozumder, Assistant Professor, Chemical and Petroleum Engineering Departmen	鹿児島大学大学院理工学研究所 筒井俊雄 教授	石油の接触分解における芳香族および多分岐炭化水素の選択性に対するゼオライト種の影響	7月14日～ 8月20日
	KACST	Mr. Nasser Judaya N. Alqahtani, Assistant Researcher, Petrochemicals Research Institute	京都大学大学院工学研究科 大江浩一 教授	遷移金属触媒を使った芳香族複素環合成	8月1日～ 9月22日
	PRDC, MoO/Iraq	Mrs. Yasameen Mundher Jaed Al-Dulaimi, Senior Chemical Eng.	北海道大学 触媒化学研究センター 朝倉清高 教授	石油精製触媒評価のための表面解析手法に関する研究 固体酸触媒の調製、特性解析、反応試験の研究	9月3日～ 9月30日、 10月2日～ 10月31日
		Ms. Marwa Nadhim Abbas Al-Juboori, Senior Chemical Eng.	鳥取大学大学院工学研究科 片田直伸 教授		
	Intevep	Mr. Jorge Antonio Moncada Vivas Refining and Industrialization Div.	東海大学湘南校舎理学部物理学科 分子複雑系研究グループ 八木原晋 教授	広帯域誘電分光法(BDS)及び電気化学的インピーダンス分光法などの技術による超重質原油の電気的特性の研究(EIS)	9月8日～ 11月13日
2015	KISR	Mr. Ahmed Mohammed Alotaibi, Research Assistant Analytical Laboratory, Petroleum Research Center	室蘭工業大学 大学院工学研究科 くらし環境系領域 神田康晴 助教授	最新脱硫触媒の評価とキャラクタリゼーション	1月7日～ 2月5日
	KFUPM	Dr. Sahel Abuduljawad, Vice Rector Mr. Abduljawad Waleed Sahel N.	北海道大学大学院、 東工大資源科学研究所、 京都大学国際交流推進室	KFUPMと本邦研究機関のトップとの間で今後の研究者交流事業の方針を協議する	6月 7日～ 6月 16日
	KACST	Mr. Ahmed Sulub Ali Al-Somali, Researcher, Petrochemical, Technology Center	広島大学大学院 工学研究院 塩野毅 教授	オレフィン重合と重合触媒開発	7月21日～ 9月11日
	KISR	Mr. Rashed Y.R.S.R Bouresli, Research Associate	富山大学大学院 理工学研究部 橋範立 教授	炭化水素の水素化分解用新規ゼオライト触媒の研究	9月1日～ 9月30日
2016	PRDC, MoO/Iraq	Mr. Mustafa Hasan Flayyih	鳥取大学大学院工学研究科 片田直伸 教授	固体酸触媒の調製、特性解析、反応試験の研究 水素化脱硫触媒ナノゼオライト触媒の調製とキャラクタリゼーション	10月7日～ 10月30日、 11月2日～ 11月30日
			北海道大学触媒化学研究センター 朝倉清高 教授		

年度	産油国 機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
2016	Saudi Aramco	Dr. Nayef Mohsen Alanazi, Lab Scientist, Supervisor, Material Performance Unit, Technical Service Division, R&D Center	①佛ベンチャーアカデミア(横浜国立大学 朝倉祝治名誉教授)、②産総研鳥羽先生(新燃料製造G長)、物質材料研究機構西村先生、③出光興産(腐食関係)、④広島大矢吹先生(物質化学工学)、⑤INPEX (Inhibitor 関連研究)、⑥東大西原先生(腐食・材料・Inhibitor 関係)、⑦新菱冷熱工業(腐食診断技術)、⑧持田先生(九州環境管理協会)、⑨東北大武藤先生(腐食・材料)、等	①腐食、防食、コーティング技術 ②～⑨日本と共同研究のパートナー訪問	7月25日～8月24日
	TAKREER TRC	Ms. Menwa Dakhan, Pilot Plant Scientist, Plant Operation Section	出光興産(株) 日揮触媒化成(株) JPEC	触媒開発/パイロット実証評価・分析	9月27日～10月28日
	VPI	Ms. Ngo Thuy Phuong, Deputy Manager of Catalysis Research Dept., PetroVietnam R&D Center for Petroleum Processing, Vietnam Petroleum Institute	早稲田大学理工学術院 松方正彦 教授	軽質ガス及び合成ガスからの分離技術の研究(ゼオライト膜によるガス分離)	9月28日～11月25日
	PRDC, MoO/Iraq	Dr. Hareth Shallan Moshref, Researcher, Refining Operations Section, Refining & Gas Researches Dev.	東京工業大学 江頭竜一 准教授	石油精製分野における蒸留分離のシミュレーション	10月5日～11月29日
2017	NIORDC	Mr. Kamran Jahangiri Babadi, Head of Process Engineering	コスモ石油(株) 中央研究所	重質残渣油からの軽質、高付加価値製品の製造方法、製油所の最適触媒選択、石油精製プロセスの先端技術	9月2日～10月15日
	Saudi Aramco	Dr. Ibrahim M. Al-Zahrani, Research and Development Center (R&DC)	①日揮触媒化成(株)、②北陸先端科学技術大学(水谷五郎教授、大島義文准教授、海老谷幸喜教授、池谷俊明准教授)、③AIST触媒化学融合センター(固体触媒チーム)、④北海道大学/触媒科学研究所(朝倉清高所長、神谷裕一教授、清水研一教授、増田隆夫教授、福岡淳教授、中山哲准教授)、⑤室蘭工業大学(神田康晴准教授)、⑥東京農工大学(銭衛華教授)、⑦早稲田大学(関根正人教授)、⑧石油エネルギー技術センター(ペトロリクス研究室)	触媒および材料研究に関して日本の大学や研究機関との共同研究調査	9月24日～10月31日
	ADNOC Refining (IETAKREER)	Mr. Abdulmajeed Saleh Rabia Bader Alkatheeri, ADNOC Refining Research Centre	出光興産(株) 日揮(株)、日揮触媒化成(株)、信州大学、石油学会 第47回石油・石油化学討論会	石油精製技術および関連触媒開発 (RFCC触媒、常圧残渣油の水素化処理触媒、ペトロリクス)	10月30日～11月28日
	VPI	Dr. Nguyen Manh Huan, Project Manager, Petrochemical Technology Dept. PetroVietnam R&D Center for Petroleum Processing	JXTGエネルギー(株) 中央研究所	接触分解軽油(LCO)の開環による軽質油製造触媒研究	10月22日～11月16日
2018	VPI	Mr. Tran Van Tri, Project Manager, Catalysis Research Dept., PetroVietnam R&D Center for Petroleum Processing	①日揮触媒化成(株)北九州事業所、R&Dセンター 石油精製触媒研究所 ②東京工業大学 科学技術創成研究院 ナノ空間触媒研究ユニット 横井准 教授	FCCからのオレフィン収率改善を目的としたゼオライト添加触媒に関する研究	10月1日～11月26日
	PRDC, MoO/Iraq	Mr. Yazen Munaf Ali Al-Lami, Refining & Gas Researches Dpt.	鳥取大学大学院工学研究科 片田直伸 教授	固体酸触媒の多環芳香族炭化水素の脱アルキル化	10月10日～11月21日
	R&DC (Saudi Aramco)	Dr. Manal Ali Al-Eid, Research and Development Center (R&DC), Chemical Division	①JOGMEC 巴博士②栗田工業 クタ開発センター③関西ベント東京事業所④大阪大学 山下教授⑤三重大学 石原教授	腐食防止剤、エマルジョンブレイカーの評価研究および高性能な水素化分解および水素化処理ゼオライト触媒の合成研究	10月19日～11月16日
	ADNOC Refining (IETAKREER)	Dr. Amena Andan Al maqtari, Process Engineering Section	①出光興産(株) 生産技術センター、千葉製油所②日揮触媒化成(株)北九州事業所③クリアント触媒(株)	石油精製技術および関連触媒開発(ベースオイル装置)、オレフィンおよびアロマ製造技術および関連触媒	10月31日～11月27日

年度	産油国 機関名	研究者氏名	日本受入機関/指導教官	研究テーマ	研究期間
2019	R&DC (Saudi Aramco)	Dr. Noor Nasser A Almana, Research and Development Center, Technical Service Division	北海道大学	オレフィンおよびアロマ製造技術および関連触媒開発-重質油 アップグレーディングによるオレフィンおよびアロマ製造	8月20日～ 9月20日
	VPI	Dr. Le-Phuc Nguyen, Manager of Catalysis Department, Catalysis Research Department	静岡大学	Niバニカム触媒を用いた二酸化炭素リッチ天然ガスからの水素 製造	9月23日～ 10月29日
	R&DC (Saudi Aramco)	Dr. Nadrah Abdullah A Alawani, Advance Analysis Unit, Research and development, Technical service division	JPEC、ATRI、出光興産(株)生産技術センター、 JXTGエネルギー中央技術研究所、AIST、日揮 グローバル(株)、JAIST、SACLA	ペトロリオミックスの基礎から応用までの開発	11月25日～ 12月11日
	ADNOC Refining	Ms. Anoud Ibrahim Issa Taher, Process Modeling and Simulation, Technical Services, Research Division	出光興産(株)、富士石油(株)	プロセスモデルおよびシミュレーション、プロセス最適化、反応モデ ルなどのスキル向上	12月4日～ 12月21日
	KISR	Mr. Rashed MMMD Alazemi, Corrosion Assessment & Mitigation Technology Program (CAMT), Petroleum Research Center (PRC)	横浜国立大学、JOGMEC、新菱冷熱工業(株)、 NIMS、大阪大学、(株)ベンチャーアカデミア	腐食および材料選定 -腐食の基礎と応用研究	1月7日～ 1月30日
	PRDC、MoO/Iraq	Mr. Maan Mudhafar Al Rawe, Senoir Chemical Engineer	コスモ石油中央研究所	ライトナフサの異性化に用いる、白金・硫酸ジルコニア触媒の合 成および触媒評価研究	1月8日～ 2月7日
2020	VPI	Dr. Huynh Minh Thuan	早稲田大学 先進理工学部 応用化学科 野田 優 教授	化学気相蒸着法によるメタンおよび二酸化炭素からのカーボン ナノチューブ合成	11月2日～ 2月24日 (月1回オンライン開催)
2021	PRDC、MoO/Iraq	Dr. Samer Gheyath Abdulridha	鳥取大学 片田直伸 教授	VGO触媒分解用メソポーラスゼオライト材料の研究開発	11月16日～ 2月22日 (月1回オンライン開催)
	KISR	Ms. Tahani Awwad Al Shammari	産業総合研究所 炭化水素資源転換グループ 森 本正人 研究グループ長	ペトロリオミックスのアスファルテン凝集モデル	10月18日 (オンライン開催)
2022	PRDC、MoO/Iraq	Mr. Husam Jumaah Mousa	三重大学 石原篤 教授	軽質留分の硫黄除去を目的としたソル-ゲル法によるY-ゼオ ライトの調製とその特性評価	1月11日～ 1月31日
	KFUPM	Dr. Gazali Tanimu	産業総合研究所 触媒化学融合研究センターデジ タル駆動化学チーム 研究チーム長 矢田 陽 博士	機械学習による触媒パラメータのシミュレーションと反応収率の 予測	1月16日～ 2月10日
2023	R&DC (Aramco)	Dr. Mohammed Zuhair A Albahar	東京大学 大学院 工学系研究科 脇原 徹 教授	ピーズミリングと再結晶によるナノZSM-5ゼオライト合成のトップ ダウンアプローチの習得	11月6日～ 12月26日
	PRDC、MoO/Iraq	Dr. Halah Mohammed Hussein	三重大学 石原篤 教授	白金/ナノシリカ-HMOR複合触媒の異性化反応における活 性	1月15日～ 2月9日
2024	KFUPM	Dr. Hassan Saeed A Alasiri	ENEOS(株) 中央技術研究所 デジタル研究所 MI 技術グループ	計算科学を用いた炭化水素処理触媒反応の探索をテーマと したENEOS 中央技術研究所での研究実習	7月9日～ (8月1日) 体調不良で7月13日帰国
	R&DC (Aramco)	Dr. Rashed Mohammad R Aleisa	出光次世代技術研究所、生産技術センター (環 境負荷の低減、二酸化炭素利用、アンモニア製 造他) 東京工業大学 原田琢也 准教授 (炭素循環) 早稲田大学 松方正彦 教授 (プラスチックリサイ クル) 東京工業大学 多湖輝興 教授 (二酸化炭素利 用)	環境負荷低減、炭素リサイクル、廃棄物の有価化、二酸化炭 素や水素変換に関する、触媒設計やプロセス実験を含めた、 触媒プロセス開発	8月26日～ (8月1日) 10月2日
	PRDC、MoO/Iraq	Dr. Dalya Jasim Ahmed	室蘭工業大学 神田康晴 准教授	軽質留分の水素化脱硫用NiMo/TiO2-AC-グラフェンナノ触 媒の調製	8月1日～2月4日 (オンライン指導4回)
2025	KFUPM	Dr. Niladri Maity	東北大学 富重圭一 教授	アルミニウムドーブCeO2ナノ材料を用いた二酸化炭素とメタ ノールからのジメチルカーボネートの直接合成	9月25日～ 11月17日
	R&DC (Aramco)	Dr. Mohammad Sami H Alroaithi	早稲田大学 松方正彦 教授	混合廃プラスチック(PEおよびPP)に対する効率的なケミカルリ サイクル(化学的アップスケーリング)プロセスの開発	9月9日～ 10月31日

※ 研究者受入事業は2019年度から研究者交流事業のなかの研究者受入として実施。

産油国研究者の受入実績	国名	件数
	サウジアラビア	80
	クウェート	36
	UAE	12
	イラク	15
	イラン	1
	ベトナム	4
	ベネズエラ	6
	合計	154

2.8 研究者交流事業（派遣）

産油国研究者の派遣事業実績

年度	産油国機関名	研究者氏名 タイトル	所属	研究テーマ	研究期間
2018 (トライアル) (注1)	Saudi Aramco	吉川琢也 助教授 工学博士	北海道大学 大学院工学研究院	重質油からの熱分解によるBTX製造	10月2日～ 1月22日、 1月22日～ 2月21日
	Saudi Aramco	増田隆夫 工学研究院長・ 工学部長 工学博士	北海道大学 大学院工学研究院	触媒勉強会(5テーマ講義) ・酸化鉄系触媒による重質油の水蒸気分解 ・ナノ粒子内包ゼオライト触媒 ・コーク燃焼およびシンタリングの機構解析 ・触媒細孔内の炭化水素の拡散機構 ・ナノサイズゼオライトの合成と反応プロセスへの応用	11月6日～ 11月8日
2019	KAUST、KFUPM Saudi Aramco	菅沼学史 講師	鳥取大学 大学院工学研究科	アルキル多環芳香族を分解せずに、脱アルキル化する減圧軽油の新規転換プロセス	11月6日～ 11月12日
	KAUST、KFUPM Saudi Aramco	品川竜也 助教授	東京大学 大学院工学系研究科	東大のエネルギー変換研究室の触媒研究： 普遍的、持続可能なエネルギーへの架橋	11月6日～ 11月12日
2020	—	Saudi Aramcoへの派遣を計画するもコロナ感染拡大の影響により、中止			
2021	PRDC、MoO/Iraq	KISRへの派遣を計画するもコロナ感染拡大の影響により、中止 相互交流の試みをイラクPRDC MoOと実施。(注2)			
2022	KFUPM	Aramco、KISRへの派遣を計画するもコロナ感染拡大の影響により、中止 若手研究者交流ワークショップをKFUPMと実施。(注2)			
2023	-	Aramcoへの派遣を計画したが、諸般の事情で実施時期が年度末にかかる見込みとなったことから、次年度に延期			
2024	Aramco	竹本晶起 助教授	東京大学 大学院工学系研究科	二酸化炭素の水素化触媒開発を目的とした、「メカノケミカルアプローチによるゼオライトおよびアモルファスシリカアルミナ触媒の合成と触媒特性の評価」	10月3日～ 12月5日
2025	Aramco	岡田拓之 (博士後期課程3年)	鳥取大学 大学院工学研究科	「石油依存からの脱却を模索するサウジアラビアにおけるCO2資源化」	1月18日～ 2月11日

※ 研究者長期派遣事業は2019年度で終了。

(注1) 2018年度のトライアルを経て2019年度から研究者交流事業のなかの研究者派遣として実施。

(注2) 海外への派遣に代わる試みとして若手研究者によるオンライン方式のワークショップを開催。

研究テーマの発表と質疑応答を行い、研究者間の相互交流を深める取組み。2021年に初開催し、2022年も実施。

産油国研究者の派遣実績	国名	件数
	サウジアラビア	6
	クウェート	0
	イラク	0
	合計	6



一般財団法人JCCP国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関